

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム さくらぎ(つばきユニット)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100410		
法人名	社会福祉法人河北会		
事業所名	グループホーム さくらぎ(つばきユニット)		
所在地	〒020-0114 盛岡市高松3丁目13番15号		
自己評価作成日	令和2年8月31日	評価結果市町村受理日	令和2年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々がこれまで暮らしてきた生活習慣を大切にすることを基本とし、家庭的な雰囲気の中でいきいきとした生活を送っていただけるよう支援しています。地域とのかかわりでは、高松老人憩の家が隣接しており町内会の行事に参加しやすく、気軽にどなたでも地域の方と交流することができます。また、近くにスーパーもあり職員と入居者様が日常の食材を買いに出かけるなど、社会参加を積極的に取り入れています。事業所内では、マンネリ化した日常にならないよう毎日の運動やミニ行事などを取り入れ、楽しみながら入居者様が主体となる生活環境作りを提供しています。職員は、介護福祉士や認知症実践者研修有資格者を中心に、専門的な知識や技術を活かしたケアを提供しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桜の名所高松の池の北600米の住宅地に位置し、近くに幼稚園・保育園・小中学校・高校やデパート・スーパー・コンビニのある開所4年目の事業所である。法人理念を受け、ユニット毎に具体化した年次目標を設け職員間で共有し支援に繋げている。地域に開かれた事業所として「地域一般開放事業」で模擬店、カフェ、健康・介護相談を実施し、多くの地域の方々が来所し交流が深まった。今年はコロナ禍で行事の見合わせが多い。利用者の高齢化が進んでいるが、看護師や医療的ケア対応職員がおり、訪問診療医・訪問歯科医も来所し医療との連携も充実している。運営推進会議の委員やボランティアの協力を得て、利用者本位の支援に取り組んでいる質の高い事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年9月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ(つばきユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に法人とユニットの理念を掲示し、いつでも確認できるようにしている。入居者の日々の変化を職員間又はカンファレンス等で話し合い、情報を共有しケアの統一を図っている。	法人理念を受け、職員が目指すケアの在り方をより分かりやすく実践に繋げていけるよう、各ユニット毎に年次計画を立て、掲示すると共に諸会議で確認し共有を図っている。今年度は「楽しく体を動かす」「下肢筋力の低下防止」を重点とし、日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、廃品回収や運営推進会議に参加しグループホームの状況や様子をお伝えしている。今年は、施設・地域の行事が中止となる中、資源回収等できる範囲で行っている。	町内会に加入し、事業所広報「すまいる」を地域に回覧している。昨年度の「地域一般開放」では保育所園児と触れ合うなど、例年、夏祭り・文化祭などの地域行事に参加し、ボランティアの来所もあり、交流が深まっている。今年はコロナ禍のため見合わせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の大半が認知症サポーター養成講座を受講している。例年では地域一般開放を開催しており、その中で介護相談を設け、困りごと等の相談を受けられる機会を設けている。運営推進会議でも同様に協力できる旨を伝えている。施設で発行している広報誌で職員が受けた研修の報告も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、過去約2ヶ月分の活動状況報告や事業所内で取り組んでいることなどについてもお伝えし、日常困っている事には構成員の方々にご助言等をいただきながら、ケアの質の向上に努めている。	委員は町内会長、民生委員、市担当課、地域包括支援センター、利用者、家族で構成され、近接する老人憩いの家で開催している。入居状況、活動状況やヒヤリハット等を報告し、委員から活発な意見が出され、新型コロナや災害時の対応について話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に盛岡市の職員の方にも出席いただき、事業所で行っているサービス等の実情を報告しながら助言をいただいている。今年は特に感染予防対策に関わる部分について、連携を密に取りながら日々変化する事態にもスムーズに対応することができている。	運営推進会議委員の市担当者(介護保険課事業所指定係)から各種情報や助言・指導を得ている。相談にも丁寧な対応を頂いており、今年は新型コロナ感染予防対策の指導や物品状況の確認などを受けるなど、密接な関係が築けている。	

事業所名 : グループホーム さくらぎ(つばきユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束に関する検討会を行い、内部・外部研修にて理解を深め全職員が周知している。常に入居者様のアセスメントを行い、身体拘束に繋がらないようなケアを心掛けている。玄関の施錠について、日中は行っていないが夜間は防犯のため施錠。更にセンサーマットを敷き入居者様の行動を把握し安全に努めている。	身体拘束適正化委員会を年4回開催して法人の指針に基づき実情の点検・検討を行い、また職員対象の研修も定期的実施している。毎月の会議で言葉による行動抑制を含む身体拘束について話し合い、不適切なケアが予測される場合は、職員同士でカバーし合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修で虐待について学び定期的に確認を行い、各職員で注意を払いながら業務に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で権利や活用の仕方を学んでいる。現在は制度を利用している人はいないが、必要になった場合はどこへ連絡し、手続きを行ったらいいか確認を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みの際は、不安な事がないよう些細な疑問にもお答えしている。また、十分に理解、納得されてから入居していただけるようこまめな確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族、入所者様が参加しご意見ご要望を頂いている。日常では受診や面会でご家族の方とお会いする際に、日頃の様子をお伝えしながらさりげなくご家族様から気軽にご意見を頂けるようにしている。また、ご意見等いただいた事には速やかに対応し、結果についてご家族様報告している。	運営推進会議に参加した時や、利用者の受診同行で見た時、また介護計画の確認の場などを利用し、意見や要望の聴き取りに努めている。出された意見や要望は職員間で共有し合い、速やかに家族に報告している。介護サービスの向上を図っていくために、家族アンケートを通じた意見・要望の把握も検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部署合同会議を設け、職員の提案や意見交換をしている。その中で取り上げられた検討事項は考えている。	毎月の会議や委員会(安全対策・研修・行事・広報)などを通し、職員の意見や要望を吸い上げている。施設長との個人面談も実施している。「コロナ禍での利用者の楽しみ」について話し合ったところ、職員の発案によるミニ運動会の実施に繋がった。	

事業所名 : グループホーム さくらぎ(つばきユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	育児、介護休業等を改正する規定に取り組んでいる。勤務時間等の組み立て整備に取り組んだ。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今回はコロナウイルス感染の関係で研修確保が難しかったがコロナウイルスに関することは施設内でも重要な機会であった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手地域密着型サービス協会や、中央ブロック高齢者福祉協議会に加入し、研修等を通じて同業者と交流している。今年は実践できなかったものの、毎年行われる定例会等に参加し、お互いに抱える悩みなどを相談や助言しながら良い関係づくりを築いている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	馴染みの物を入居時に持ってきていただき、安心できる環境作りに努めている。本人からの要望には耳を傾けるようにし、可能な範囲でお応えできるようにしている。職員間での情報共有を密にケアの統一を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者会議等、話し合いの場で入居者やご家族それぞれの思いを伺い、意見交換の場を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望を伺い、その身体状況に合わせた対応ができるように努めている。関わりの中で変化がある場合はその時の状況に合ったサービスの提案や対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること、出来ないことを見極め、ご自分で出来ることは積極的に行っていただき、残存能力維持を一緒に行えるよう努めている。		

事業所名 : グループホーム さくらぎ(つばきユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、担当者会議、受診等で来設した際には、日頃の様子を報告、相談を行い情報を共有できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人と交流ができるように面会の時間を決めたり、今回のようなコロナウイルス感染予防対策においては、オンライン面会ができるように工夫している。馴染みの関係については、お互いが高齢ということもあり連絡が途絶えているケースが多いため、ご本人からの要望があればご家族を通じて代わりに近況報告していただいている。	コロナ感染予防対策で家族や馴染の方との面会も出来ない状況にあるため、1週間に1回、利用者と家族が電話で話しをする機会を設けたり、家族が来所できるかかりつけ医受診の支援に努めている。コロナ禍のため始めたオンライン面会の利用実績は、これまで5件程となっている。2か月に1回馴染みの理容師が訪問している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性や相性を把握し、配慮しながら話しやすい方との席を考えたり日常でも一人ひとりと関わられるよう話をしている。又、日々の生活の中で様子観察を行い、介入したりレクリエーションや行事を通してつばき、ぼたん入居者の交流の機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了してもご本人やそのご家族等の相談に対応しており、職員全体がその後の経過等を周知するようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や様子から、ご本人の意向を把握し、職員間での情報共有に努めている。口頭での申し送りやケース記録、ノートを活用し周知するようにしている。	思いや意向は日常の会話から、また会話が難しくなってきた方は、単語的なつぶやきを拾うなどしている。得られた情報は口頭での申し送りや、ノート、ケース記録に記載している。職員は業務に入る前に、申し送りノートで確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査や、基本情報、入居後のご本人やご家族との関わりの中で得た情報の把握に努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ(つばきユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズム、心身状態、好み等他知り得た情報は、記録物や口頭での申し送りで情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議でプランの確認後、次回の担当者会議までにモニタリング、カンファレンスを経て出来ること出来ないことの個々の把握に努めている。	介護計画は3か月、6か月毎にモニタリングを行いカンファレンスを経て見直している。見直しに際しては、居室担当職員、看護師、管理者、ケアマネに本人や家族も加えた担当者会議を開催し、現状に即した細やかなプランを作成している。	利用者がより良く生活するプランの作成を基本とし、本人・家族を含む多職種による“担当者会議”を設け、沢山の方々の意見や要望等を反映させながら、モニタリングとアセスメント、そしてカンファレンスを繰り返し、チーム力を活かして現状に即した細やかな計画を作成されており、この作成方法を継続深化させることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践したこと等、個別に記録しカードに伝達すべきことを記して、個人の変化を職員間で共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度のニーズに対応し、ご本人やご家族の現状に合わせ、新たなサービスの提案や提供が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでは、町内会の行事への参加(夏祭り、資源回収他)や外出支援、散歩等を行っていたが、今年は行動制限もあり外に出かけることができず、施設内のみでの行事となり、楽しんでいただけ場が少なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は、普段の生活の様子やバイタル、食事、排泄状況を担当医師へ書面で情報提供したり、付き添うご家族様にもお伝えしている。	ほとんどの方がかかりつけ医を家族同行で受診している。事情により職員が同行したり、家族が頼んだヘルパーが同行する方もいる。ホームでの様子は、情報提供書や口頭で医師に伝え、受診結果は包括指示書に記録している。訪問診療や訪問歯科診療を利用される方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活動作等の細かな変化を伝え、医療的な面に関しては看護師が判断し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	骨折等で入院の際は術後の様子、リハビリの進みなど入院先へ訪問し観察している。又、ご家族や主治医と話ができるよう日頃から各病院の地域連携室と連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りや重度化してきた場合、又、医療行為が必要となった場合の方向性については契約時に説明し、同意を得ている。その他、入居者様に著しく体調変化が認められた場合にはご家族とも十分に話し合い、今後の方向性について意思確認をしておく。	入居時に重度化や終末期の対応について説明し、同意を得ている。看取りは施していないが、事業所での介護が困難になった場合には、家族・本人と話し合いの上で特養等へ移っている。医療的ケア実務者研修を修了した職員と常勤看護師がおり、重度化対応は充実している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに基づきチェックポイントの確認や応急処置を行う形となっている。看護師から緊急時の対応や応急処置についての内部研修を年1回行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定での避難訓練を行っている。運営推進会議で報告し、町内会、民生委員と協力体制を築いている。	防災マニュアルに基づき、年2回、日中と夜間想定での避難訓を実施している。町内自主防災組織と連携し、町内会長や民生委員等と協力して利用者の安全確保を図っている。非常時用に食糧等を3日分確保し、カセットコンロ、灯油ストーブを備えている。	ハザードマップ上で指定されていないものの、利用者の高齢化・重度化が進み、2階にも居住していることから、特に夜間時の避難が課題と考えられます。町内の自主防災組織や地域住民との一層の協力体制を整えた、具体的な避難方法の確立を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格等を把握し、プライドを傷つけない声掛けや配慮に努めている。定期的に内部研修等でスピーチロックと取り上げ確認、振り返りをして日常の言葉遣いには注意し支援を行っている。	人生の先輩として敬い、認知症の特性を十分に理解した上で傾聴を心掛け、「否定しない」「先ず受け入れる」介護に努めている。利用者が不安なく安心して穏やかに過ごしてもらえるよう、職員間で研修を重ね、利用者一人一人の特性を理解しながら介護に努めている。トイレや入浴時には羞恥心に特に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いせず、傾聴を行い出来ることは希望を叶えられるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思やペースを尊重して支援している。その日の生活にメリハリを持っていただけるようタイムスケジュールを決めて体操やレクリエーションへの参加の声掛けや促しを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後などこまめに確認しながら、さりげなく身だしなみが整うよう支援している。季節ごとに衣替えを行い、季節に合った衣類の提供を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の片づけをできる範囲で行ってもらっている。日常の会話の中で、入居者様が食べたい物を伺い、献立に反映したり、計画を立てて皆さんと一緒に食事作りができるようにしている。	献立は同法人の栄養士の助言を得て、季節の食材を活用しながら栄養バランスを考え、利用者の声も取り入れて作っている。利用者はテーブルや食器拭き、おやつ作りに参加している。雑祭や誕生会など様々な行事食を提供しているが、特にお寿司バイキングは好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の確認を行い把握に努めている。食が進まない方には補助食品など代替の物を提供したり、ご家族様と相談しながら昔から好物だった物を定期的にご用意していただいている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ(つばきユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い、必要な方には仕上げの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前食後、おやつ前などには必ず促しの声掛けを行っている。排泄記録表を活用し排泄状況や排泄パターンの把握に努めている。夜間も失禁のある方は時間をかけて声掛けを行い、失敗を少なくするよう支援している。	排泄記録表により排泄パターンを把握し、見守り、声掛け、誘導を行い、トイレでの排泄に努めている。布パンツとリハビリパンツの利用は半々で、ほとんどの方が自力でトイレで排泄をしている。夜間は声掛けし、失敗が少なくなるよう支援をしている。居室でのポータブルトイレ利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分摂取量の記録と把握の他に定時の体操を取り入れたり下剤調整を行い管理している。また、主治医に日頃の様子を報告し、必要な場合は薬でも調整を行い便秘予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おおよその入浴日は決めていますが、本人の意思や生活パターンを尊重しながら、事前にご本人に伺い相談しながら入浴日を決めている。	週2回午後入浴とし、利用者の希望を尊重し入浴日を決めている。ほとんどの方が入浴を楽しみにしており、職員との1対1での会話も弾む。一人での入浴を楽しみたい方には、ドアの外で見守っている。安心安全対策とし手すり、シャワーチェアがある。入浴時間は利用者とのコミュニケーションの場、気持ちや思いを聴ける場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況を見ながら、適宜居室で休んでいただくよう促している。また、居室内の整理や室温の確認、管理を行い支援している。安眠につながるよう日中の活動量を増やす等の工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	包括指示書等で薬の変更や観察事項の確認している。服薬ミスの無いように二重確認や服薬後、口腔内の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる限りの役割を持っていただいている。レクリエーションの企画、提案の他、聞き取りを行い実施し気分転換支援を行っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ(つばきユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は、外出が難しい状況であり個々の希望に沿った形での支援が実施できないが、外気浴やレクリエーション、小規模行事等で季節を感じていただけるよう工夫している。	コロナ感染予防のため、外出は難しいが、ドライブを兼ね、高松の池に花見にでかけたり、プランターに花を植え水遣りをしたり、日向ぼっこや散歩をしている。また中庭でお茶会などをし、外気浴に繋がるよう工夫をしている。例年は家族との外出や外食などがあるが、現在は見合わせている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承のもとで、個人で所持している方は個人で管理しているため職員は介入していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	夏にご家族あてに暑中見舞いを作成し送付したり、携帯電話をお持ちの方は直接会話を楽しんでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペース空間に季節を取り入れた飾り等をレクリエーションで作成し変化を取り入れながら楽しんでいただいている。特に室温変化には配慮し、衣服や空調設備で調整している。	エアコンや加湿器で室内の温度を調節し、換気、密閉、密集に配慮しながら共有スペース作りをしている。壁面には季節に応じた作品や行事写真が飾られ、潤いのある空間となっている。外出制限の今年は、このスペースでミニ運動会を実施するなど、職員の工夫により、利用者は様々なレクリエーションを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の馴染みのある家具等を持ち込んでいただいたり、仲の良い入居者様同士で席を近くに等して過ごせるよう考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使用していた馴染みの家具(腰掛椅子、ダンス、小物入れ)など持ってきていただき、ご本人やご家族の意向を伺いながら落ち着ける空間を提供できるよう配慮している。	居室には電動ベッド、クローゼット、洗面台、エアコンが備えられ、利用者は馴染みの椅子、小物入れなどを持ち込んでいる。壁面にカレンダー、写真、臨床美術で作った絵などが飾られている。どの部屋も整理・整頓され清掃が行き届き、居心地よく過ごせるように配慮されている。	

令和 2 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ(つばきユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線を確保し、足元には障害物がないよう歩きやすく動きやすい環境づくりをしている。居室のドアが同じであるため、迷わないよう表札を付けたりお一人でも混乱しないようトイレ等には目印を表記している。		